

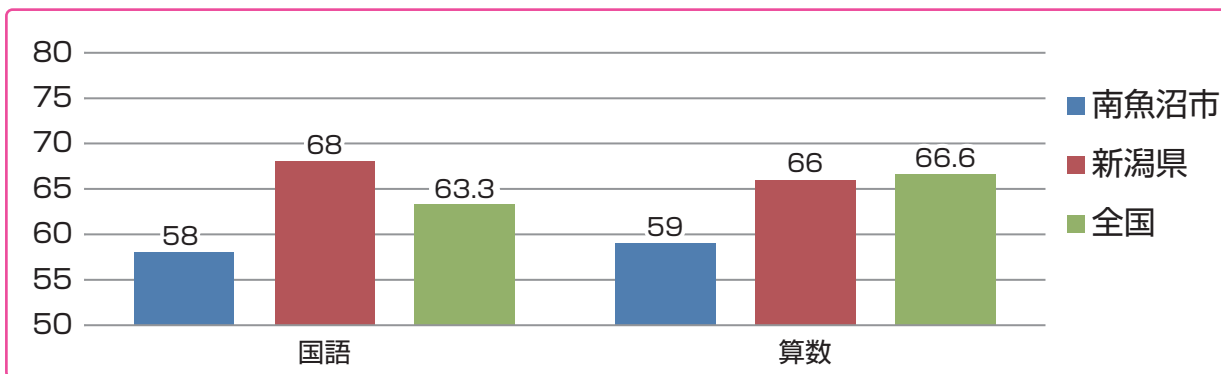
令和元年度（平成31年度）全国学力・学習状況調査の結果（その1）

問 学校教育課 ☎773-6700

4月18日(木)に全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。平成30年度まで、国語、算数・数学は2種類（知識や基礎基本事項を問う「A問題」と活用力や応用力を問う「B問題」）に分けて出題されていましたが、令和元年度（平成31年度）から知識と活用を合わせた1種類の問題形式に変わりました。また、中学校では新たに英語が調査に加わりました。7月に発表された結果を、全国と県の平均と比較し、分析を行いました。

1 正答率の比較 ※平成29年度から市、県の数値は小数点以下を表示していません

小学校6年生の平均正答率



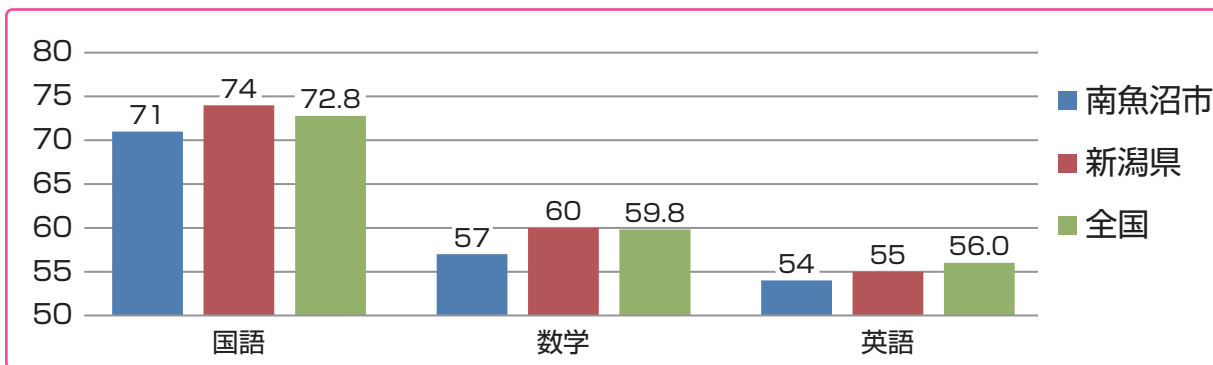
[小学校6年生国語]

すべての問題が全国平均正答率を下回りました。回答の内容から「漢字を使おうという意識が低い」「ことわざなどの言葉の意味を知らない」「自分の考えを文章にすることが苦手」という結果が現れています。日常生活で「考えていることを伝え合う」ことが少なくなっていると考えられます。学校だけでなく、家庭でも「漢字を使う」「自分の考えや感想などを、言葉を選んで効果的に伝え合う」ことが大切です。

[小学校6年生算数]

全国と県の平均正答率を大きく下回りました。基礎的な計算問題だけでなく、長い文章を読み取って計算式を作ることに課題があります。また、グラフの問題では、読み取れる情報を整理して、設問に対応する力をつけることが課題です。日々の授業で、「基礎・基本の定着」「理解できる情報を考察し、活用することに焦点を当てた取組み」が必要です。

中学校3年生の平均正答率



[中学校3年生国語]

全国平均正答率をわずかに下回りました。相手に正しく伝えるための適切な言葉を、選択して使用することが課題です。中学生のうちにとくさんの人と話し合う機会を作り、「話すとき」「書くとき」に使用する言葉を考えながら、「相手の話を丁寧に聞いて理解する」「自分の考えを分かりやすく伝える」ことを意識して生活を送ることが大切です。